

公表

事業所における自己評価総括表(放デイ)

○事業所名	2026年2月3日			～	2026年3月19日	
○保護者評価実施期間	(対象者数)	14	(回答者数)	14		
○保護者評価有効回答数	2026年3月1日			～	2026年3月27日	
○従業者評価実施期間	(対象者数)	5	(回答者数)	5		
○従業者評価有効回答数	2026年3月31日					
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月28日					

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスと学童クラブが併設されているため、生活・遊び・療育が自然につながり、子ども達は日常の中で無理なく成長していく事ができます。年齢や特性の異なる子ども同士が関わることで、思いやりや社会性が育まれ、「支えあい」「学び合い」の関係が生まれることが強みです。	異年齢や異なる特性の子ども同士の関わりを大切に、自然な学び合いが生まれるような環境設定を行っています。トラブルや関わるの場面も、ただ仲裁するのではなく、子ども自身が気づきや学びを得られるような関わりを意識しています。	保護者との連携を密に取りながら、施設での子どもの様子や成長を丁寧に伝えるだけでなく、家庭での関わり方のヒントを共有することで、子どもにとって一貫した支援環境を整えることができ、保護者の不安や悩みによりそうことで信頼関係の構築に繋がっています。
2	動作法やSST(社会生活技能訓練)、随意運動等の専門的な支援を取り入れており、感情のコントロールや自己調整力といった内面的な成長にもアプローチができます。身体への働きかけを通して心の安定につなげることで、子ども達が安心して自分らしく過ごせる土台を作ります。	「できたこと」や「できるようになったこと」にしっかり目を向けて言葉にすることを大切にしています。小さな成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を高めたり、「やってみよう」という意欲に繋げるようにしています。	子ども自身の主体性をより引き出せるように、「どうしたい?」と問いかける関わりを意識することで、自分で考えて行動する力を育てています。
3	職員間での情報共有や支援の一貫性を大切にしており、どの場面でも同じ視点で子どもに関わることができ、安心感のある環境を提供する事ができます。一人ひとりの小さな変化や成長を見逃さずに、丁寧に寄り添う支援ができることも強みです。	こども一人ひとりの特性やその日の状態を、毎日のミーティングで丁寧に共有することを大切にしています。職員でこまめに情報共有を行い、「今どんな関わりが必要か」を常にすり合わせることで、支援に一貫性を持たせて、子ども達が安心して過ごせる環境づくりを意識しています。	支援の見える化と振り返りの強化をし、日々の関りや子どもの変化を記録し「どんな関わりが効果的だったのか」「どこに課題があるのか」を定期的に振り返りながら、支援の質を高めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学童クラブとの併設のため、子ども同士の関わりによる影響が大きく、良い影響も多い反面、トラブルや不適切な行動が広がることがあります。	学童クラブとの交流の中で、同じ空間で過ごす時間が長いと、関係性は深まる一方で、トラブルが起きる機会も増えてしまいます。距離が近いからこそ、感情のぶつかり合いも起きやすくなると思います。	良い関わりを意図的に増やせるように、ただ見守るだけでなく、協力しなくてできない遊びや、役割分担のある活動を取り入れることで、自然と望ましいかわりが増えていくと思います。「こう関わりと楽しい・うまくいく」という成功体験を意識的に作っていきたいです。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放デイ）

事業所名 障害児通所支援事業所ちゅらハウス

公表日 年月日 2026年3月31日

利用児童数

14人

回収数

14人

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13		1			支援員、送迎担当の配置は人員配置上は満たしているが、一人ひとりに寄り添った支援を行うためには職員数の増加が望ましい。対応策を考えながら対応していきたい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	2	2		駐車場から、事業所に入るまでの階段が気になります。	建物の構造上、バリアフリーにはなっていませんが、配慮が必要な児童に関しては職員が対応している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	3				今年度は、4回のご家族参加型イベントの開催を行いました。前年度より参加家族も増えましたが、内容の検討を行い充実した会の開催が出来る様に検討し、次年度の取り組みを行いたい。又、外部主催親の会周知もラインでの配信や、掲示板での案内も行いました。次年度も、外部親の会との連携も図りながら周知を行っていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	1		1	保護者会や面談等でも周知を行い、毎月のお便りでも周知を行っています。周知方法の検討を行いながら、ご家族の皆様が気軽に話せる雰囲気環境設定にも気を付けながら対応を検討していく。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14				SNSで一日の様子を見ることが出来、毎回楽しみにしています。親子で楽しみにしながら見えています。	ホームページの定期的な見直しを行いながら、情報発信を行う。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	2		1	マニュアル策定も行き、見直しも行き、それに沿った訓練も行き様子などお便りや保護者会等での周知、面談等でも個別で周知を行っています。周知方法に改善がみられると思うので、検討していく。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14					
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					

公表

事業所における自己評価結果（放デイ）

事業所名		障害児通所支援事業所 ちゅらハウス				公表日	2026年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	4	子どもの特性に合わせ、視覚的面等での配慮を行いながら、わかりやすい伝達方法での対応を行っています。	2階部分が専用室となっており、バリアフリーとは言えないが、子どもの特性に合わせた配慮は行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		落ち着いて過ごせるような空間設定を行い、安心して過ごすことが出来るように環境設定に気を付け対応しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもに合わせた対応を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		毎日の支援の振り返りと共有を図りながら、見直しを行うし事を、全職員で関わり支援を行う体制は常に取っています。	毎回、支援前に全職員参加で前日の支援の振り返りと、当日の支援内容の確認を行う事で、支援の統一性を図り、月1回のミーティングで業務改善の確認や振り返りも行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		全職員で共有を行い、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の支援振り返りミーティングや、職員会議などを通して業務改善に努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		保護者や評議員のみの評価になっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修計画を立てて、月1回の職場内研修と外部研修への参加を行い、職員の質の向上を目指し取り組んでいます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページでの公表と、保護者への説明を行い取り組んでいます。	児童に合った計画とプログラムになっているか、常に見直しを行いながら取り組む。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		それぞれの子どもやご家族との面談を重ね、それぞれのニーズを把握しながら計画の作成にあたっています。	子どもと親のニーズに相違がある場合もあるので、両方からの話を聞きながら計画の立案に当たる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		全職員で会議を行い、共通理解を図りながら意見を出し合いながら取り組んでいます。	支援の統一性を図るためにも全職員参加で行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		全職員把握を行い、共有を行ったうえで支援を行う。	支援の統一性を図るためにも全職員参加で行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		全職員でプログラムの担当を決め、担当が立案した内容を全職員で確認と共有を行っている。	定期的な見直しもしながら取り組んでいる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	3		プログラムは曜日で固定しているが（外部講師等の関係）、長期休暇時を利用して、色々なプログラムが体験できるようにしていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		ミーティングでの確認は、毎支援前に全職員参加のもと行っています。	パート支援員の出勤に合わせ、午後より行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後は、正規支援員のみ行い、翌日に全職員で振り返りと共有を行っている。全職員が参加して行う事で、支援の統一性と安定性が図れるので、必ず全職員参加のもと行うようにしている。	勤務体制の関係で、支援終了後の振り返りは全職員参加で行うのは厳しいので、翌日全職員が揃った時間帯で行うようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日の記録を振り返りや日々の支援につなげています。年度初めには、記録の書き方の研修を行い共有を図っています。	記録内容につき、記録者によりばらつきがないようにしていく。
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		ご家族や学校等と連携を取り、見直しを行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5		一人ひとりの特性に応じて、それぞれ組み入れながら支援を行う。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		一人ひとりの特性を考慮し、子ども主体での取り組みが出来る様、発言できるよう配慮を行いながら取り組んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		管理者や担当職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		自立支援協議会への参加を行い体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	新年度初めには、学校への挨拶等を行い担任との顔合わせも行う事で、連携が図れている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		ご家族の了解のもと、情報共有に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				利用対象児は、2号館が対象になっているが、ご家族の了解を得て情報共有は行うようにしていく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	当市には、児童発達支援センターはありませんが本島からの支援センター主催の研修には参加しています。	研修等への積極的な参加で、連携を図りたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		法人で、学童クラブと児童館運営を行っているため、常に交流できる環境にあることは大きな強みです。	環境的に交流する機会は整っているの、今後も交流を図りながらいろいろな子供たちと関わる機会を増やしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		毎回、管理者が参加し情報共有を行いながら連携を図っています。	積極的な参加で連携を図りたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳やライン、電話などで、また送迎時を利用してご家族への伝達を行い、子どもの様子や支援内容などをこまめに伝えています。	信頼関係を築く上でも、支援の詳細や子供の状況を丁寧に伝えることを心掛けている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	昨年度より取り組みを行っているペアトレ、声掛け募集を行ってましたが今年度は参加者なしでした。	ご家族が参加しやすい日程の組み方や時間帯の見直しを行いながら、次年度も計画していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		入所時や、変更時には面談を行い丁寧な説明を行う。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		子どもとの面談や、ご家族との面談を行い対応している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別面談を行い同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		ご家族との信頼関係を築き、話しやすい雰囲気や傾聴の姿勢で臨む。	ご家族との信頼関係の構築に努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	家族参加型イベントを今年度4回計画しました。参加家族は増えているので、内容等の検討も行いながら、さらに参加増を目指しご家族通しの交流が出来るよう支援を行う。	ワンパターンのにならないように、いろいろな企画で参加家族が増えるような取り組みを行いたい。
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			体制を整えて対応しています。お便り等を利用し、常に周知は行っている。	職員に対しても毎年度初めの研修で体制等について再確認を行いながら取り組んでいる。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		月1回のお便り発行や、SNSでの活動内容発信、ホームページでの公表や情報提供等行う。	発信に当たり、個人情報の取り扱いには十分気を付け行う。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		ご家族への説明と同意を文書でいただき、職員に対しては年度初めの研修やミーティング等でも常に確認を行い留意しています。		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1	それぞれのお子さんに合わせ、ご家族に合わせた対応で取り組んでいる。		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域の行事への協力、事業所の行事（アンガーマー・ハロウィン等）への協力をいただき出来たことは良かった。	行事の呼びかけ方を近隣の方へ、掲示板など通し行い、周知の幅を広げていきたい。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		毎月のお便りや、SNSで取り組み状況等配信することにより、周知は出来てきている。	年度初めにマニュアルの見直しと確認を行い、避難計画を策定し月1回の訓練を実施する。
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		年度初めには、全保護者への確認を書類で行い、面談等でも確認を行っている。	
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	年度初めには、全保護者への確認を書類で行い、面談等でも確認を行っている。今年度は対象児童はなし。	対象児がいた場合は、面談を行い書類での確認を行い対応していく。
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		年度初めには全職員で確認を行い、日々の点検も行うようにしていく。	毎年度見直しを行いながら、研修や訓練なども行う。
		51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		年度初めにご家族との確認を行い、書類での確認も行っている。保護者会等でも周知している。	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		研修とその都度、全職員で共有と確認を行い、再発防止の徹底に努めている。	年度末には、一年間の振り返りを全職員で行い、再発防止にむけた対応と取り組みの確認を行っている。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		全職員必須の研修として、事業所内、外部研修受講等を行い、事業所としての虐待防止の取り組みを共有している。	全職員が参加し研修受講できるような配慮を行い、虐待へつながらないような職場内の環境を整えながら、職員の意識付けを行う。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	マニュアル・指針の確認を全職員で行い、対応をしている。	全職員での確認を行い、法人としての対応も全職員で共有を行う。		